（本號八面）　（明治三十年第五十一號　郵便信書認可）　明治二十六年八月十日　（定價金二錢五厘）

時事新報

時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり　時事新報には每號詳細なる商況物價の報告あり

第三千七百三十號
明治廿六年八月十日　木曜日
舊暦癸巳六月廿九日　（己、卯）
日出午前四時五十七分　入午後六時三十五分
出午時二時二十六分
月入午安五時四十一分
滿潮午前三時十一分
滿潮午後三時四十九分
（西暦一千八百九十三年）

時事新報定價

時事新報は每號八面乃至十二面にして詳細なる商況物價の報告あり其代價郵送料は左の如し

一號　貳錢五厘〇一ケ月　前金五拾錢〇三ケ月　前金壹圓四拾五錢〇六ケ月　前金貳圓八拾五錢〇一ケ年　前金五圓六拾錢〇月曜日休刊（此他大祭祝日年始年末等一切休刊セズ）

時事新報郵送料

一　日本國內並に朝鮮國京城、仁川、釜山、元山津　一ケ月　金拾三錢
二　南亞米利加、中央亞米利加、布哇諸嶋、米國若くは加奈陀を經て郵送する歐洲各國　一ケ月　金六拾錢
三　北米合衆國、英領加奈陀　一ケ月　金三拾錢
四　香港を經て郵送する亞細亞諸港、太平洋諸嶋、濠洲　一ケ月　金六拾五錢
五　露領浦潮斯德、清國諸港　一ケ月　金三拾五錢

時事新報廣告料（前金）

一行五號活字廿四字詰　一日限　一行　金　付十三錢　一日以上七日以内　一行　金十一錢　十日以上　一行　金十錢

本社へ寄稿に付

東京府下を始め各府縣に通信社なるものあムて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を塡塞するより各社同一の記事を掲ぐるあと寡からず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信をあへ依頼せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も寡からざれば本社に記事論說を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんあとを請ふ

時事新報社ニ達シタル投書ノ原稿ハ凡テ寄稿者ニ返ヘサズ又本社ニ保存セズ

時事新報

佛暹事件は既に落着を告げたり左の一篇は英國の兵事新聞に記したるものにして今日に於ては少しく時機に遲くれたるの憾なきに非ざれども兩國交涉の顚末并に軍事上の形勢を知るに足る可きが故に此に譯載するものなり

佛國と暹羅

佛國が暹羅に對するの計畫は敢て奇とするに足らず國境問題の交涉を名として他國の版圖に指を染むるは露人得意の手段にして今回佛國の擧動は恰も其隣合國の爲に倣はんとするものゝ如くなればなり佛國の植民次官デルカッセー氏（海軍卿の監督の下に植民事務の責任に當るものなり）は去る五月十三日上院に於て佛國は不幸にして其國力に相應する領地を有せず而して事又は政略の失敗に由りて土地を失ひたるが爲めに植民地擴張の必要はます〳〵切なるに至れりとの旨を公言せり而して暹羅に於けるメーコン河沿岸の地方は有盤の土地にして若しも此土地を手に入るゝときは從來盤谷に於て行はれたる貿易を自國の領地なる西貢に引寄するあども難きに非ざるが故に佛領印度支那の大守ラチッサン氏の如き正に此地方を以て植民擴張の手段を實行するに恰好の場所と爲すの意見なるが如し今を距る二年前時の外務卿リボー氏も議院に於て少しく其邊の意味を漏らしたるあとありし程の次第なれば目下兩國交涉の場合に際して佛人の望む所其だ小ならずメーコン河の兩岸には現に其所屬なる安南人民の住居するもの多しとの理由を以て大に求むる所あるも決して怪しむに足らざるなり然りと雖も暹羅の爲めに謀れば若しも佛領安南の國境をしてメーコン河畔に到らしむるときは恰も國土の三分一を失ふの姿にして其要求に默從するあと能はざるは無論、既往現在の事情に徵するに佛の政略は正理の當を得たるものに非ざるが如し抑も佛暹の交通は千六百年代に始まりたれども其後殆んど二百年間は中絕して實際兩國の間に通商條約を取結びたるは千八百五十六年の事なりとす爾後佛人が暹羅の內治外交に關し英國の勢力を承認したるは事實にして彼の千八百六十三年に其隣國なる東埔塞を佛の保護國と爲したるが如きも實際は英人の同意を得て行ひたるものに外ならず其後佛の海軍大佐ラグリー氏が其報告書に添へたる地圖には暹羅安南の境界はメーコン河と支那海との間なる山脈に在るあとを明記せり千八百八十三年黑旗兵の亂に暹羅兵が之と戰ふて敵を退けたるは此山脈の境界內にして又千八百十六年より同八年の間、暹羅兵が佛暹兩國の委員を警護したるも亦あの境界內なりとす左れば之を歷史の事實に徵するも佛國が其勢力を內地に及ぼしたるは實に近年來の事に過きざれども拔目下の形勢は如何と云ふに海軍提督ヴァロン氏は同國の或る新聞記者に向て佛國は飽くまでも暹動せざる可らずと明言せり蓋し氏は東洋艦隊の司令官たるあと二年間の經驗に於て英國が暹羅を煽動しつゝあるの事實を發見したりとて政府に向て非常手段を勸告したりと云ふ目下暹羅に在る佛國軍艦は其旗艦なる甲鐵艦トリオンファント（四千七百噸）一等巡洋艦フチルフェーを最として報知艦砲艦等合せて五隻なれども事の必要あれば印度洋艦隊より援艦を派するあと甚だ容易なる可し而して東京及び交趾支那に在る河川用其他の小軍艦は何れもメーコン河の用に適する者にして其數總て九隻の多きに及べり又暹羅の軍艦は如何と云ふに昨年新造の巡洋艦マチャクルクリー號（二千四百噸）を首として巡洋艦砲艦等の小軍艦九隻あり司令官は暹羅人バデー氏にして高等の士官は何れも英人もしくは獨逸人を使用せり是等の軍艦が實際に活潑の用を爲すや否やは頗る疑はしき所なれども一事事を生じて佛人が小軍艦を以てメナン河より盤谷に溯るに際しては必ず抵抗を免れざるあとならん然るに佛國の方に於てはトリオンファント、フチルフェーの如き大艦あり盤谷府はメナン河口を距るあと十能はざるは外ならず盤谷府の地方は有五哩餘の處に在り而して其河口は其だ淺くして退潮の時は三フィートに過ぎず滿潮にても十三四フィートに超えざるの一事にして河口を封鎖するは易けれども盤谷に溯るは難からざるを得ず又メーコン河の方は如何と云ふに千八百六十六年より同八年の間、佛國政府より派遣したる探檢委員の一人なるカルチー氏の說に從へば航行の困難は東埔塞の境界に始まりて暹羅領のコン以北は到底溯洄の望なしと云ふ其後佛人が試みたる數回の經驗に由るも亦同樣の結果なりと云へば是れ又軍艦を用ゐるの場所に非ざる可し但し此方面に於ては佛人は其河の下流を管理するの便利ある其上に東埔塞の人民は暹羅のバタンボン及アンコルの地方を蠶食せんとするの望、切なるが故に一たび使嗾するときは敵愾の心を起さしむるあと容易なりと云へり事情果して然らば佛國の爲めに利なるが如くなれども一方に於ては又不利の事情なきに非ず即ち植民地の仕組甚だ不整頓なるの一事なり抑も東洋に於ける佛の植民地は本來軍艦碇泊所の目的に出でたるものにして今尙ほ海軍卿の監督に歸せり故に植民次官デルカッセー氏の如き憲法上に於ては毫も管理の權力なき旨を自から明言したれども實際に於ては海軍卿の監督の下に植民事務の責任に當らざるを得ず此不始末なる管理の結果として政略に一定を欠き隨て實力の不足を致すは自然の數にして即ち彼の東京の始末の如き國民の非難を免れんとするの手段として實際は非常の混雜にも拘はらず表面には只平和々々と聲言したる其結果は同地方に於ける海軍の勢力を減殺したるに過ぎざるのみ思ふに佛國多數の人民は斯る睹易き道理を見ずして徒に事を好むの愚を演ずるものに非ざる可し然りと雖も英國は此事に對して毫も利害を感ぜざるに非ず暹羅は亞富汗と共に我東洋の藩屏國たり吾々英人たるものは實に其滅亡を坐視して止むものならんや

官報

○司法省告示第三十七號
福嶋地方裁判所並福嶋區裁判所廳舍改築工事中本月九日ヨリ岩代國信夫郡福嶋町大字福嶋字南裡通三十八番地ニ假廳ヲ設ク
明治二十六年八月九日　司法大臣芳川顯正

○第二豫備金支出
明治二十六年度第二豫備金支出
第十二回
一金二百六十五圓五十四錢　獸疫費
秋田埼玉兩縣下ニ於テ獸疫發生ノ爲メ之レカ豫防費ヲ要シ本行ノ金額第二豫備金ヨリ支出ノ儀農商務大臣ヨリ請求有之本大臣同意ヲ表シ之ヲ上奏シ本月五日勅裁ヲ得タリ
明治二十六年八月九日　大藏大臣渡邊國武

雜報

○德嶋縣撰擧競爭の現況　第五區に於ける代議士撰擧の形勢を觀察するに阿部派（改進）大久保派（自由）執も互角の勢力にて三好郡は阿部派の掌中に在り唯爭ふ所は美馬郡の向背如何に存す而して今日の所にては自由派稍や苦境に在るもの〳〵如し又今回の競爭は激烈ならんとする模樣あるより德嶋縣警察の取締極めて嚴重にして執の派にもせよ他の使嗾を受けて暴行强迫又は不穩の擧動に出づる壯士あらば使嗾者と共に撰擧區外に放逐し兇器を携ふるものは直に之を取上げ撰擧終るまで警察官に於て保管せんとす之が取締のため德嶋警察署より巡査部長一名、巡査十五名、東警察署より巡査五名、巡査二名、板野警察署より巡査部長一名、巡査入名とゝなり昨今の中に到着の筈なり

○淺草座　改稱後の初日なるが故に出勤すべき鬼丸が急に出勤せざりしが狂言は伊達競阿國戲場割（序幕）鎗の權三（三幕目）山名家門の場（六幕目）間注所の場（大切）絹川の谷蔵役割　絹川の谷蔵　足利利根丸）豆腐屋三ぶ　鬼丸　太田伴藏、諸國の百姓　藤次、渡邊嘉藤次、榮御前　山名宗全　代君（銀藏）木戸孝允　千枝（種五郎）道化　助女房れ豐、沖の政岡、鶴田重三郎　びん人金五郎（九藏）右觀劇定價は上等二圓十錢同平土間一圓づれの場所も一名段なり

●春木座　は去る一日より一番目「盆踊恨の隅田川續俤」法界の出しもの丈に面白く水藝の手際巧妙先代小團次が春木座子小團次が春木座開場以來寸地を餘て好評なりしに今日草葉の蔭よりサコやはて今度は土間水藝を見せる事なとて物數寄道樂と身體の嬌捷自在ばあれ亦一の好奇臭さ所多しと難すしといふも一般嫌らしき所もあらず水藝を驚くばかりかある蓋し眞似人略評を下さんに屋吉三に追ひ出さ賣僧たる根性を失三に二太刀浴せらしド、水底より亡引戻しまでショボ

らせたり鐘が淵道

時事新報は每號詳細なる商況物價の報告あり